

オホーツク海 宗谷暖流情報

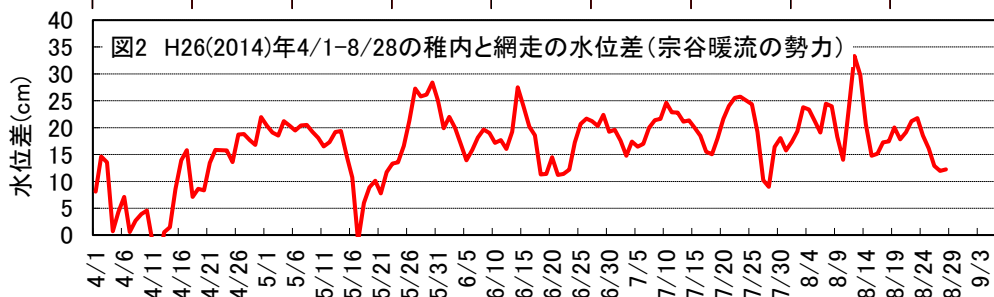
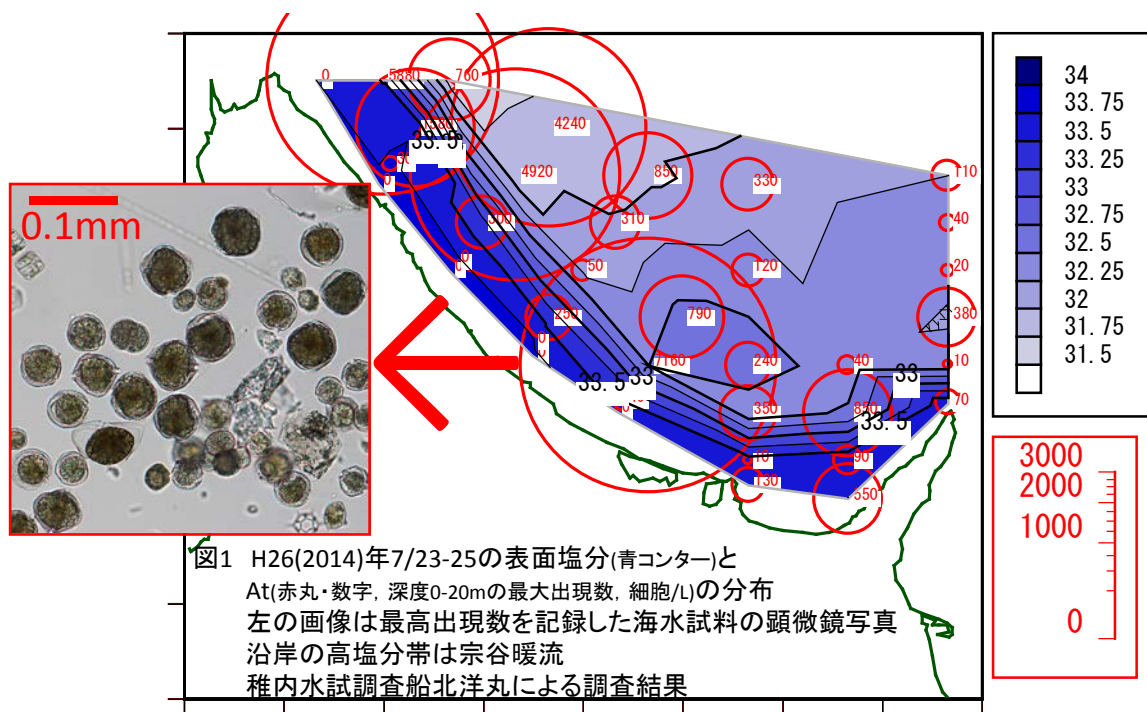
—9月上旬までは麻痺性毒性値の上昇に要警戒—
(H26(2014)年8月下旬)

H26(2014)年8月29日
中央水産試験場資源管理部
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

●7月下旬の広域調査の結果、麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、主に宗谷暖流の外側に濃密に分布(最高7160細胞/L)していたことが分かっています(図1)。1000細胞/Lを超えるAtの出現は麻痺性貝毒による生鮮出荷自主規制措置がとられた2012年以来2年ぶりで、出現数は過去13年間で最高となっています。出現数は主に深度10mで多く、タネ(シスト)を形成する直前に現れる大型の細胞(運動性接合子)が多く含まれていたことが分かっています。

●宗谷暖流の一時的弱勢は、6/18-22, 7/27-28に続いて直近の8/27-28にも観測されています(図2)。幸い生鮮出荷自主規制値を上回る麻痺性貝毒は未だ検出されていませんが、引き続き9月上旬までは麻痺性毒性値の上昇に警戒願います。

●宗谷暖流情報は今回で終了します。



*宗谷暖流の勢力は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク海 宗谷暖流情報

—麻痺性毒性値の上昇に警戒して下さい—

(H26(2014)年8月上旬)

H26(2014)年8月7日

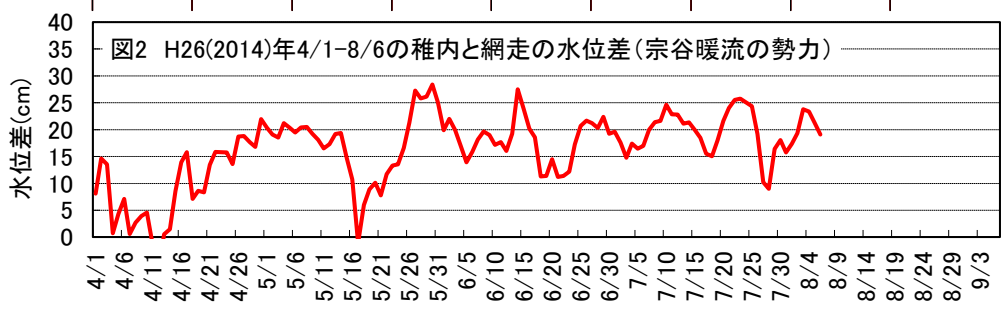
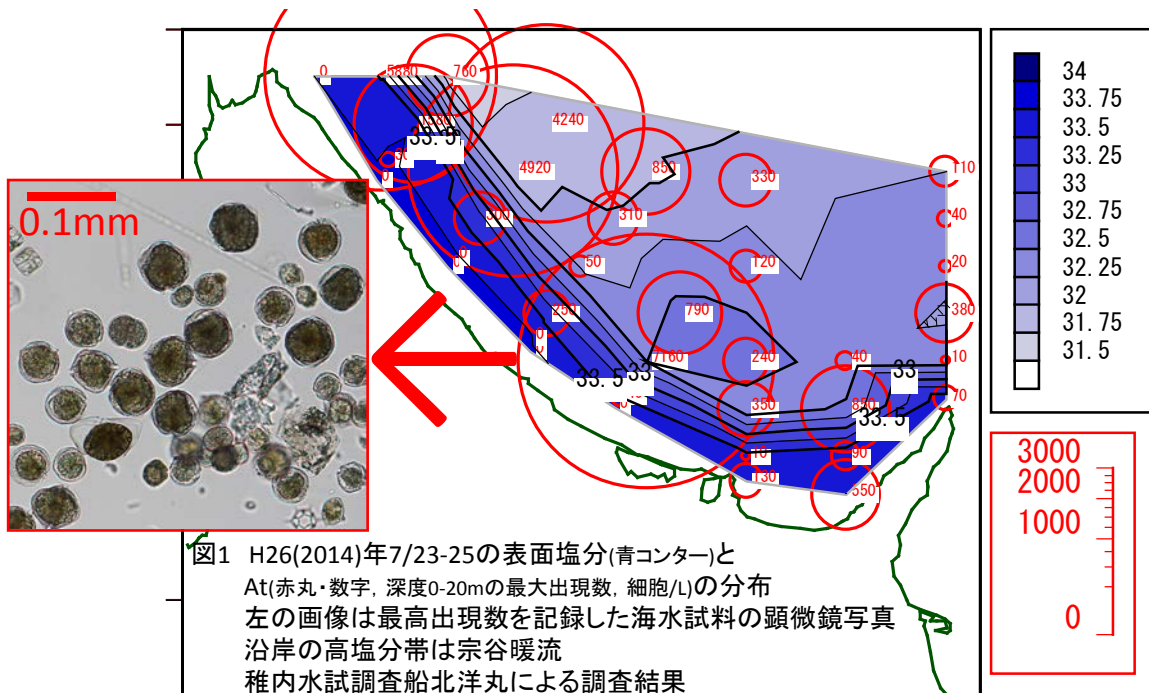
中央水産試験場資源管理部

(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

●7/23-25に37定点で行った広域調査の結果, 麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は, 主に宗谷暖流の外側に濃密に分布(最高7160細胞/L)していたことが分かっています(図1)。1000細胞/Lを超えるAtの出現は麻痺性貝毒による生鮮出荷自主規制措置がとられた2012年以来2年ぶりで, 出現数は過去13年間で最高となっています。出現数は主に深度10mで多く, タネ(シスト)を形成する直前に現れる大型の細胞(運動性接合子)が多く含まれていたことが分かっています。

●7/27-28に低気圧通過に伴い強い北風が吹いたため, 宗谷暖流が一時的に弱勢となっていたことが分かっています(図2)。このことは, 宗谷暖流外側のAtが沿岸に流入した可能性が高いことを意味します。引き続き, 毒性値の上昇に厳重に警戒願います。

●宗谷暖流情報については今後も適宜発信します。



*宗谷暖流の勢力は, 稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク海貝毒プランクトン速報

—麻痺性毒性値の上昇に警戒して下さい—

(H26(2014)年7月下旬 続報)

H26(2014)年7月30日

中央水産試験場資源管理部

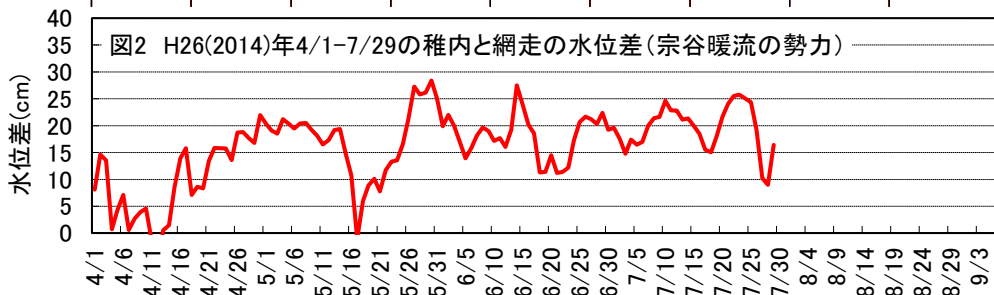
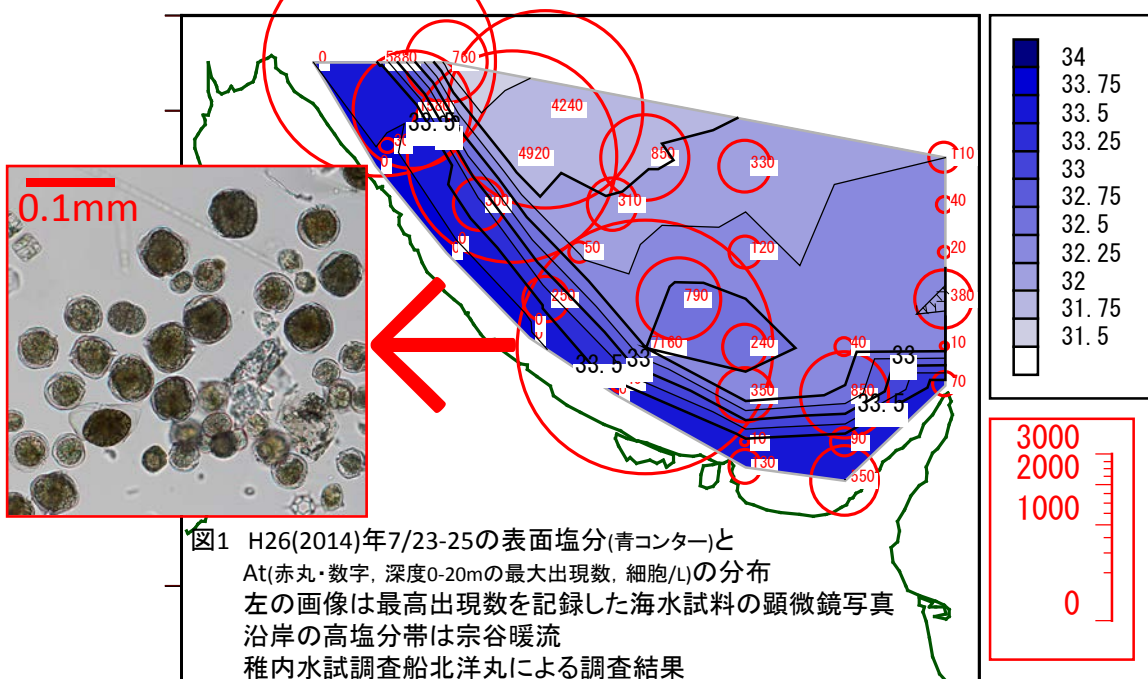
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

●7/23-25に37定点で行った広域調査の海水試料(深度0, 10および20m)の検鏡が終わりましたので、結果をまとめてお知らせします。

●麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、主に宗谷暖流の外側に濃密に分布(最高7160細胞/L)していることが分かりました(図1)。1000細胞/Lを超えるAtの出現は麻痺性貝毒による生鮮出荷自主規制措置がとられた2012年以来2年ぶりで、出現数は過去13年間で最高となっています。出現数は主に深度10mで多く、タネ(シスト)を形成する直前に現れる大型の細胞(運動性接合子)が多く含まれていました。

●さらに、7/27の低気圧通過に伴って強い北風が吹いたため、宗谷暖流が一時的に弱勢となっていたことも分かりました(図2)。このことは、宗谷暖流外側のAtが沿岸に流入する可能性が高いことを意味します。毒性値の上昇に厳重に警戒して下さい。

●広域調査は今回で終了しますが、宗谷暖流情報については今後も適宜発信します。



*宗谷暖流の勢力は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク海貝毒プランクトン速報

—麻痺性毒性値の上昇に警戒して下さい—

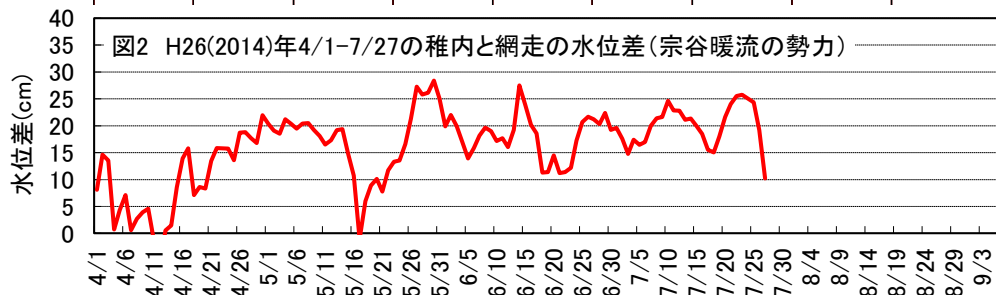
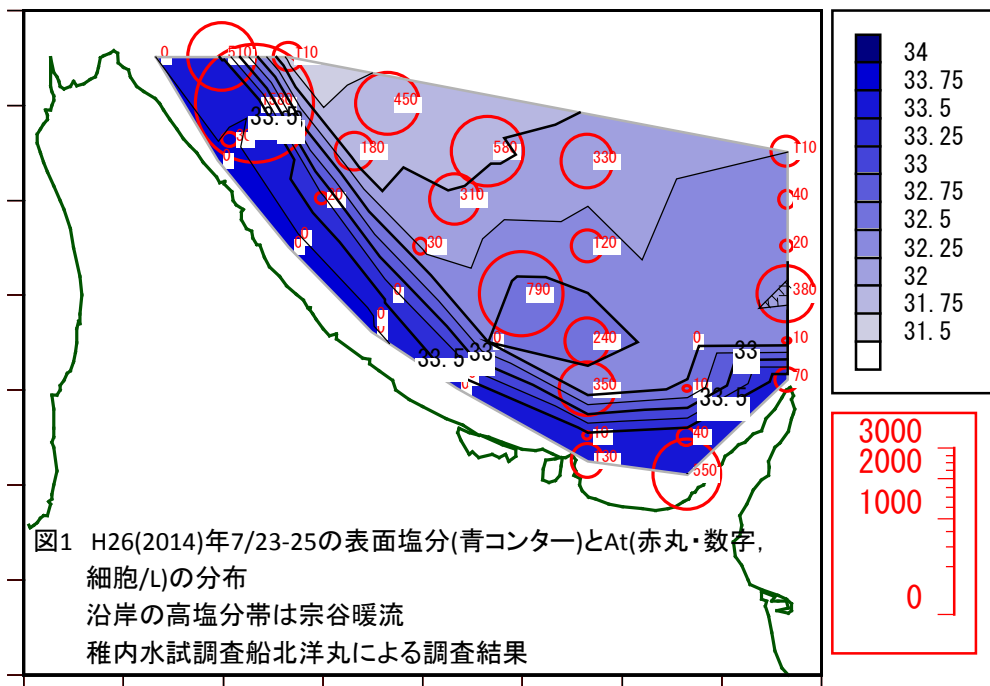
(H26(2014)年7月下旬)

H26(2014)年7月28日

中央水産試験場資源管理部

(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

- 7/23-25に37定点で行った広域調査の結果を、まず表面のみについてお知らせします。
- 麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、主に宗谷暖流の外側に広く分布(最高1580細胞/L)していることが分かりました(図1)。1000細胞/Lを超えるAtの出現は麻痺性貝毒による生鮮出荷自主規制措置がとられた2012年以来2年ぶりです。
- さらに、7/27の低気圧通過に伴って強い北風が吹いたため、宗谷暖流が弱勢となっていることも分かりました(図2)。このことは、沖合のAtが沿岸に流入する可能性が高いことを意味します。毒性値の上昇に警戒して下さい。
- 表面以外(深度10および20m)の結果については、海水試料の検鏡が終わり次第速報します。
- 広域調査は今回で終了しますが、宗谷暖流情報については今後も適宜発信します。



*宗谷暖流の勢力は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク海 宗谷暖流情報

—麻痺性毒性値の上昇に警戒して下さい—

(H26(2014)年7月中旬)

H26(2014)年7月18日

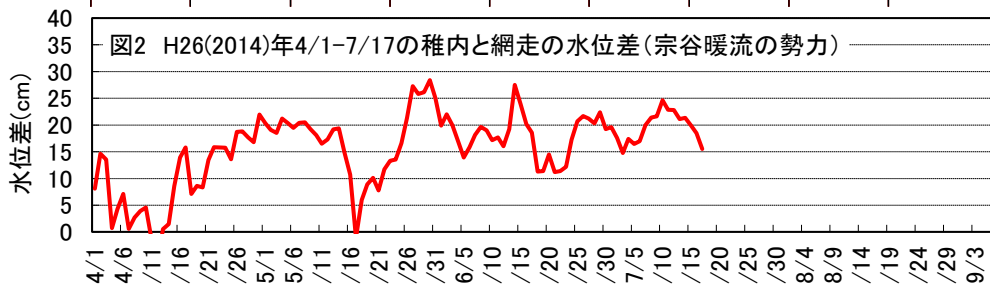
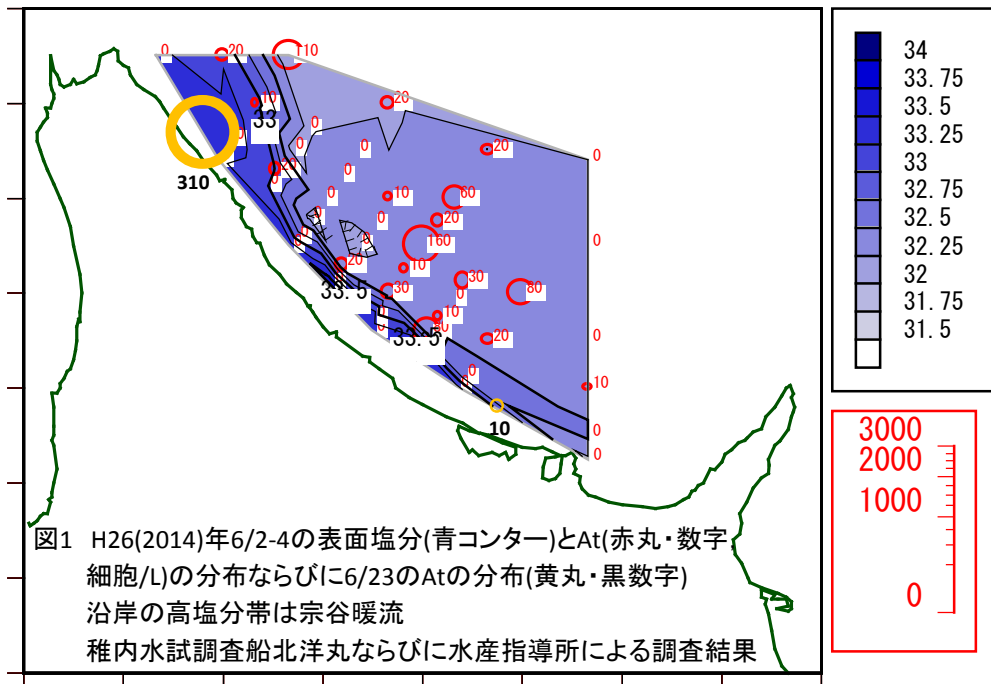
中央水産試験場資源管理部

(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

●6月上旬の調査で、麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、宗谷暖流の外側(主に雄武～湧別沖)に、最近の麻痺性貝毒発生(出荷自主規制)年(H24(2012)年)と同じレベル(最高160細胞/L, 平均16細胞/L)の出現が確認されています(図1)。さらに6/23の調査では、頓別定点で最高310細胞/L, 常呂定点で10細胞/Lがそれぞれ出現しています(図1)。

●6/18-23に宗谷暖流の勢力指標*となる稚内と網走の水位差の減少が観測されており(図2), 6/23の調査でAtを含んだ水塊の沿岸への流入も確認されているため、間もなく麻痺性毒性値が上昇するおそれがあります。今後の麻痺性毒性値の上昇に警戒してください。

●次回のオホーツク海貝毒プランクトン調査は次週7/23-27を予定しています。海水試料の検鏡が終わり次第、結果を順次速報予定です。



*宗谷暖流の勢力は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク海 宗谷暖流情報

—麻痺性毒性値の上昇に警戒して下さい—

(H26(2014)年7月上旬)

H26(2014)年7月4日

中央水産試験場資源管理部

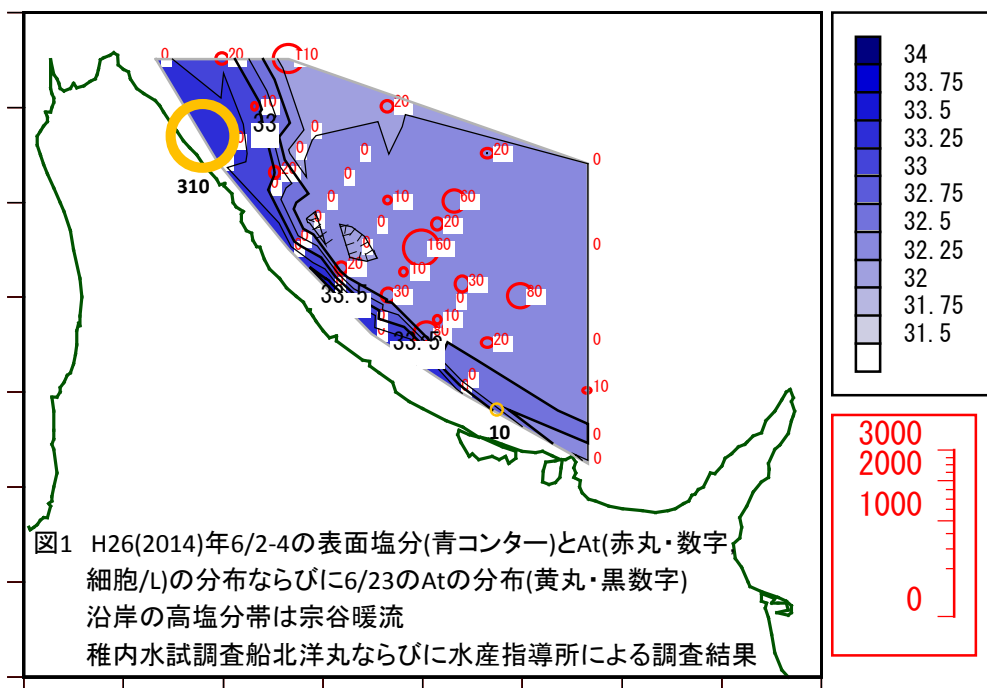
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

●6月上旬の調査で、麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、宗谷暖流の外側(主に雄武～湧別沖)に、最近の麻痺性貝毒発生(出荷自主規制)年(H24(2012)年)と同じレベル(最高160細胞/L, 平均16細胞/L)の出現が確認されています(図1)。さらに6/23の調査では、頓別定点で最高310細胞/L, 常呂定点で10細胞/Lがそれぞれ出現しています(図1)。

●6/18-23に宗谷暖流の勢力指標*となる稚内と網走の水位差の減少が観測されており(図2), 6/23の調査でAtを含んだ水塊の沿岸への流入も確認されているため、間もなく麻痺性毒性値が上昇するおそれがあります。今後の麻痺性毒性値の上昇に警戒してください。

●宗谷暖流の勢力については今後も適宜情報を発信します。

●次回のオホーツク海貝毒プランクトン調査は7月下旬を予定しています。



*宗谷暖流の勢力は、稚内と網走の水位差で代表できていることが分かっています。

オホーツク海 宗谷暖流情報

—麻痺性毒性値の上昇に警戒して下さい—

(H26(2014)年6月下旬)

H26(2014)年6月27日

中央水産試験場資源管理部

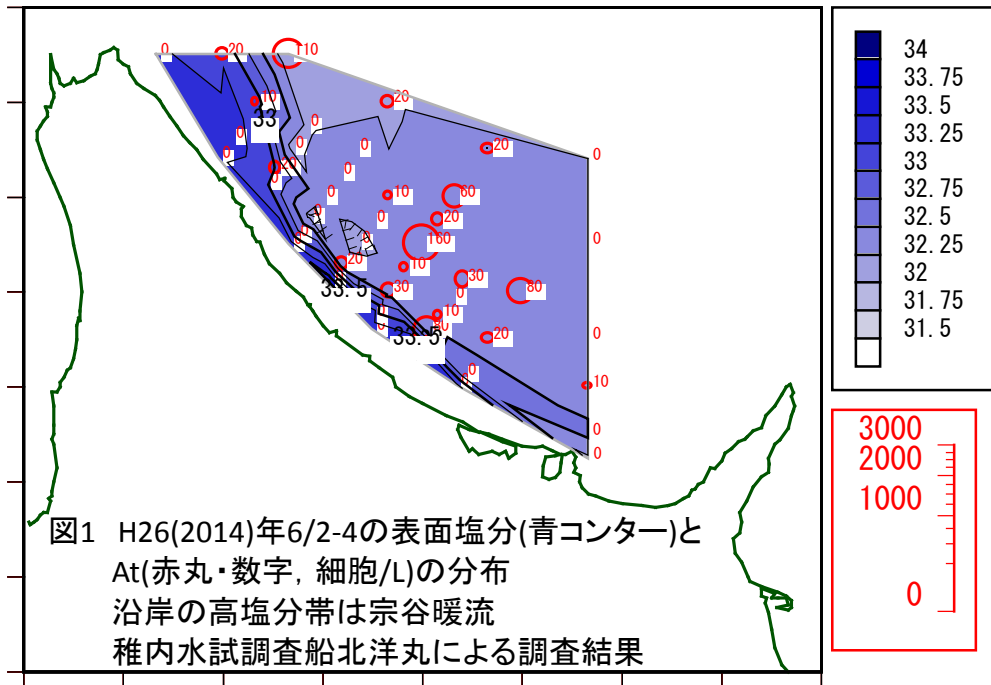
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

●6月上旬の調査で、麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、宗谷暖流の外側(主に雄武～湧別沖)に、最近の麻痺性貝毒発生(出荷自主規制)年(H24(2012)年)と同じレベル(最高160細胞/L, 平均16細胞/L)の出現が確認されています(図1)。

●6/18-23に宗谷暖流の勢力指標*となる稚内と網走の水位差が減少したため(図2)、今後数週間以内に、Atを含んだ水塊が沿岸のホタテ漁場に流入して、麻痺性毒性値が上昇するおそれがあります。今後の麻痺性毒性値の上昇に警戒してください。

●宗谷暖流の勢力については今後も適宜情報を発信します。

●次回のオホーツク海貝毒プランクトン調査は7月下旬を予定しています。



*宗谷暖流の勢力は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク海 宗谷暖流情報

—麻痺性毒性値の上昇に警戒して下さい—

(H26(2014)年6月中旬②)

H26(2014)年6月20日

中央水産試験場資源管理部

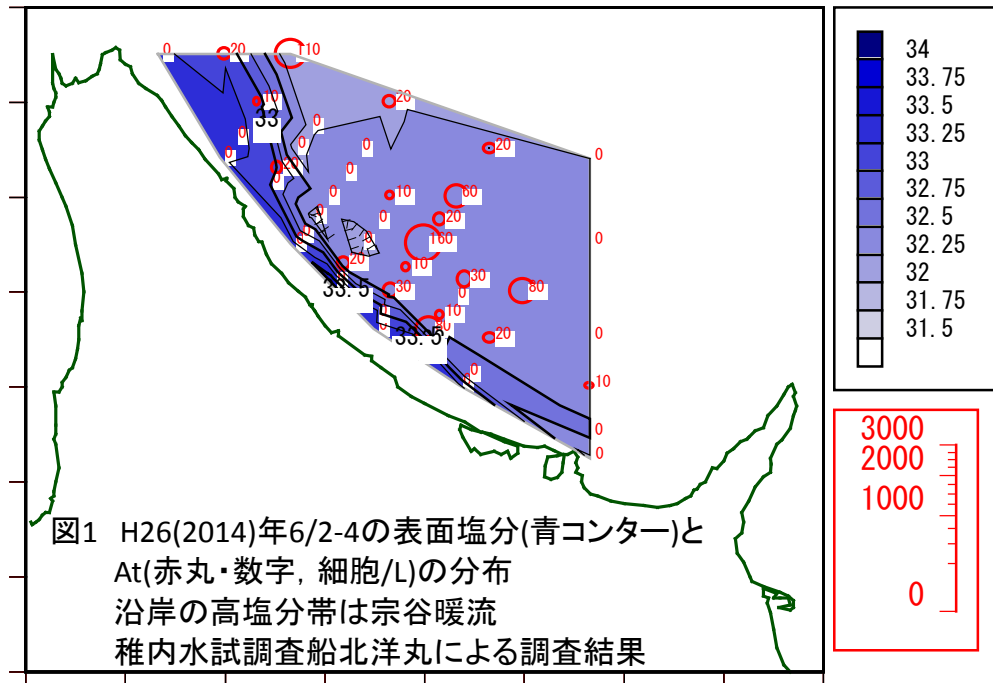
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

●6月上旬の調査で、麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、宗谷暖流の外側(主に雄武～湧別沖)に、最近の麻痺性貝毒発生(出荷自主規制)年(H24(2012)年)と同じレベル(最高160細胞/L, 平均16細胞/L)の出現が確認されています(図1)。

●6/18-19に宗谷暖流の勢力指標*となる稚内と網走の水位差が減少したため(図2)、現在の宗谷暖流の勢力は「弱め」と推察されます。このため、今後数週間以内に、Atを含んだ水塊が沿岸のホタテ漁場に流入して、麻痺性毒性値が上昇するおそれがあります。今後の麻痺性毒性値の上昇に警戒してください。

●宗谷暖流の勢力については今後も適宜情報を発信します。

●次回のオホーツク海貝毒プランクトン調査は7月下旬を予定しています。



*宗谷暖流の勢力は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク海 宗谷暖流情報

(H26(2014)年6月中旬)

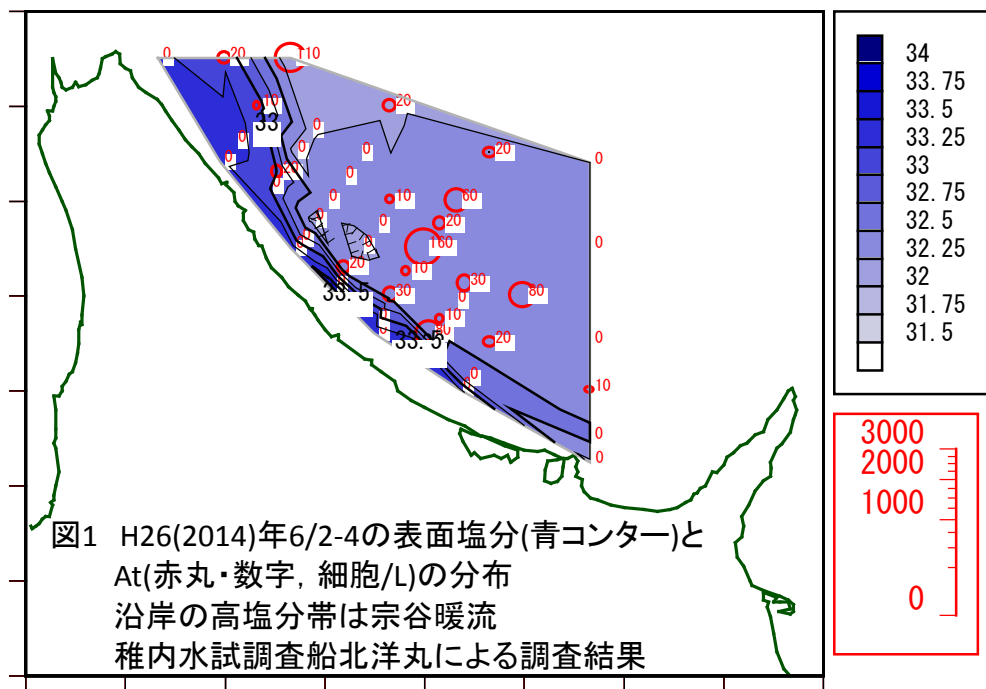
H26(2014)年6月16日
中央水産試験場資源管理部
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

●6月上旬の調査で、麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、宗谷暖流の外側(主に雄武～湧別沖)に、最近の麻痺性貝毒発生(出荷自主規制)年(H24(2012)年)と同じレベル(最高160細胞/L, 平均16細胞/L)の出現が確認されています(図1)。

●稚内と網走の水位差で指標される宗谷暖流の勢力*が弱まれば、Atを含んだ水塊が沿岸のホタテ漁場に流入して、麻痺性毒性値が上昇するおそれがあります。6月中旬現在の宗谷暖流の勢力は例年並み～強めですが(図2), 北寄りの風が数日にわたって強く吹くなどの気象条件によって、勢力が弱まる恐れがあります。今後の麻痺性毒性値の推移に注意してください。

●宗谷暖流の勢力については今後、適宜情報を発信します。

●次回のオホーツク海貝毒プランクトン調査は7月下旬を予定しています。



*宗谷暖流の勢力は、稚内と網走の水位差で代表できていることが分かっています。

オホーツク海貝毒プランクトン速報

(H26(2014)年6月上旬)

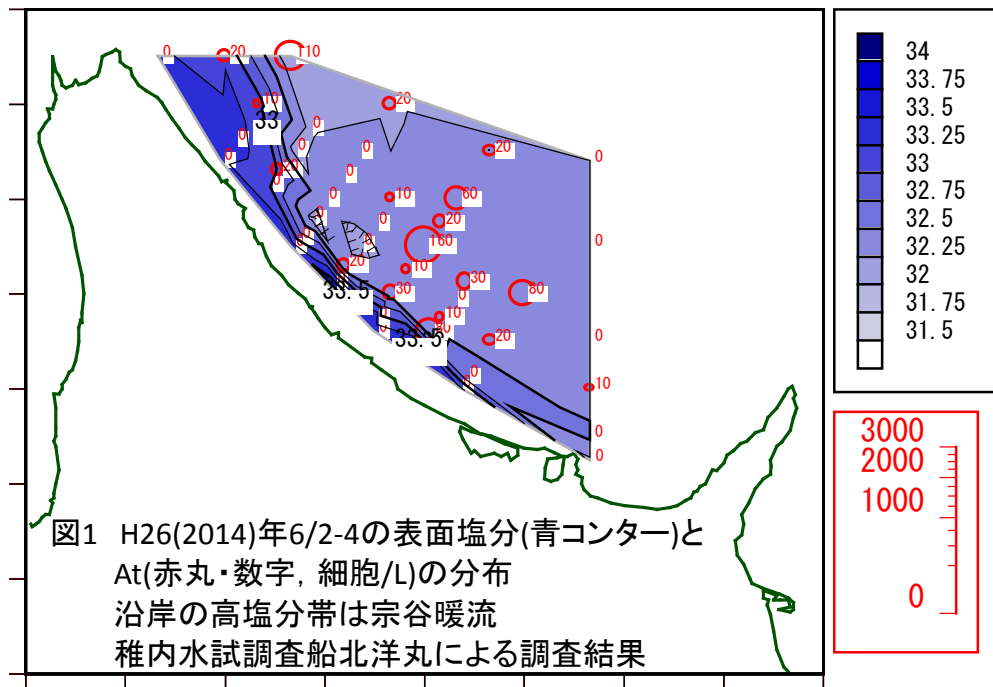
H26(2014)年6月9日
中央水産試験場資源管理部
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

●麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、宗谷暖流の外側(主に雄武～湧別沖)に、最近の麻痺性貝毒発生(出荷自主規制)年(H24(2012)年)と同じレベル(最高160細胞/L, 平均16細胞/L)で出現しています(図1)。

●稚内と網走の水位差で指標される宗谷暖流の勢力*が弱まれば、Atを含んだ水塊が沿岸のホタテ漁場に流入して、麻痺性毒性値が上昇するおそれがあります。6月上旬現在の宗谷暖流の勢力は例年並みですが(図2), 北寄りの風が数日にわたって強く吹くなどの気象条件によって、勢力が弱まる恐れがあります。今後の麻痺性毒性値の推移に注意してください。

●宗谷暖流の勢力については今後、適宜情報を発信します。

●次回のオホーツク海貝毒プランクトン調査は7月下旬を予定しています。



*宗谷暖流の勢力は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。